

地域の経済動向（令和4年4～6月期） 《オホーツク地域》

1 経済動向に係る企業等の声（4～6月期）

【建設業】

- ・競争激化による売上と利益の減少及び技術者不足の懸念が続いている。（一般土木建築工事業）

【製造業】

- ・原材料となる丸太が毎月のように高騰、1.5～2倍程度まで価格が上昇。在庫はあるが、今後、商品の供給が間に合わない恐れを危惧。価格転嫁はまだ行っていない。燃料費の高騰だが、工場内の燃料代は木くずを燃料としており影響はない。（木材加工業）
- ・昨年からのウッドショックにより原材料は高騰しているも、在庫で対応出来ている。物流費も値上がりしているが、頻繁に製品を流通させることは少なく影響はない。（家具製造業）
- ・昨年冬に製造した在庫があるため、現時点で原材料高騰による影響はない。お中元の時期を控え、売上は前年度と比較しても増加傾向。原材料高騰が続いた場合、お歳暮時期にかけての影響を懸念。（水産加工品小売業）
- ・原材料の高騰に伴い、価格は変えずに商品の内容量を1割程度減少させ対応。この状況が続けば価格転嫁し、値上げせざるを得ない。円安のタイミングで海外向けの販売が思うように進まずもどかしい。（食品製造・卸売業）

【卸売・小売業】

- ・扱っているほぼすべての商品の仕入価格が値上がりしているため、今後の商品価格の見直しが必要。また発注しても製品が入荷されない状況が続き、修理に対応できない。（金物小売業）
- ・5年後、10年後を見据えた人材確保が課題。（産業機械器具卸売業）

【運輸業】

- ・原油価格が高騰しているが、運送部門は価格転嫁も出来ず厳しい状況にある。また、ウッドショックで製材（最終製品）は値上がりしているが、元請けではないため、こちらについても価格転嫁できず、厳しい現状。（運送事業者）







【サービス業】

- ・事業の継続が課題。（自動車整備業）

【関係機関・団体】

- ・行動制限がかけられている時期、食材の保存が難しい業種、特に寿司屋などの生食を扱う店などは大きな影響があった。そのため、制限が解除された後であっても、なかなか取り戻すことは難しく厳しい状況であると聞いている。また、換気が出来ているなどとして一時期、焼肉店への注目が集まったこともあり、業態転換した事業者もいるが、同様に食品保存が難しく軌道にのれないまま打撃を受けている。（組合）
- ・国の支援等あるため飲食業からの相談はないが、ウクライナ情勢等の影響で木材が3倍程度高騰しており、建設業が厳しい状況にある。女満別空港は6割程度の人に戻ってきており、今後、コロナ前と同じ本数に戻していくものと思う。（商工会）
- ・町内の家具販売事業者から、燃料高騰の煽りを受け輸送コストが上がり厳しい状況が継続していると聞いている。（商工会）

































2 道内金融機関から見た地域景況感 (4～6月期)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
非常に好調	好調	やや好調	普通	やや低調	低調	非常に低調
						

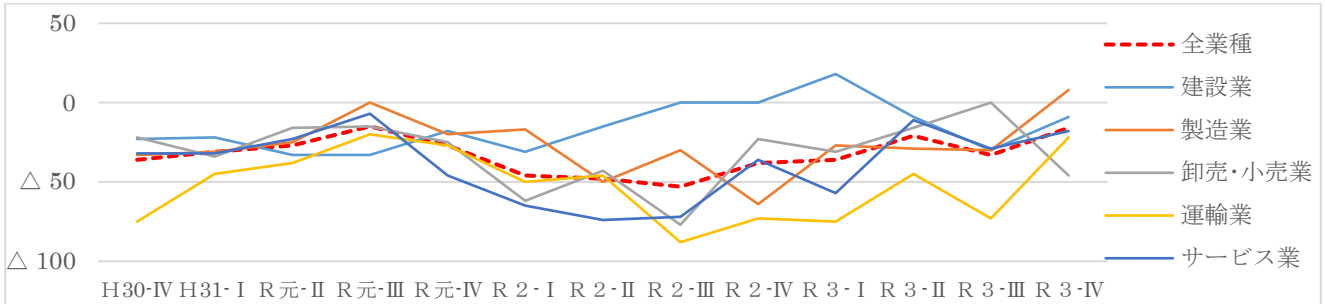
【直近の景況感】

	現在の景況感				次期見通し	
	総合	生産 動向	消費 動向	判断理由	方向感	判断理由
網走信用金庫				当金庫で行った業況調査の結果、製造業・建設業で前回調査に比べ、業況判断 DI 値が大幅に改善しており、生産動向を「普通」と判断した。サービス業の DI 値が改善した一方、卸売・小売業は前回同様に大きくマイナスであり、消費動向を「低調」とし、総合的な景況観を「やや低調」と判断した。		全業種において、3か月後の業況見通しについて「悪化」とする回答が多いため、次期の景況見通しは「下降傾向」と判断した。
遠軽信用金庫				生産動向の景況感については、前年同期と比較すると、製造業については収益が増加しているものの、その他業種については、厳しい状況が続いていることから、「やや低調」(前回調査時: やや低調)と判断した。 消費動向の景況感については、前回調査時と比べ、業況判断 DI 値が改善傾向にあるものの、依然として厳しい状況にあることから、「やや低調」(前回調査時: やや低調)と判断した。 前回調査時(7-9月期)と比べ、業況判断 DI 値が改善しているものの、どの業種も依然として業況は厳しい状況にあることから、総合的な景況感、前回調査時同様の「やや低調」と判断した。		次期の景況見通しについては、新型コロナウイルス変異株等の影響により、感染収束の見通しが立たず、多くの企業が先行き不透明で、厳しく予想しており、今後の業況回復には時間を要すると考えられることから、次期の景況見通しは、「下降傾向」と判断した。
北見信用金庫 (北見地区)				当金庫の景況動向調査によると、前年同期と比較した売上 DI は△23 となり、収益 DI は△26 となった。前回調査時(3か月前)から売上 DI は5ポイント、収益 DI も5ポイント改善した。しかしながら、依然として DI はともにマイナスであり、景況が悪いと捉えている企業が多く存在している。		当金庫の景況動向調査によると、今後3か月の見通しでは、売上 DI、収益 DI もともに悪化する見通しとなっている。
北見信用金庫 (紋別地区)				基幹産業である水産関連会社の最盛期であること、主力のホタテ漁が好漁であったことから好調な生産動向であるものの、依然として秋サケ漁については低調な漁模様であることから、生産動向については「やや好調」とした。 また、労働力の高齢化が進んでおり、人手不足による生産調整もあり、今後の課題となっている。消費動向については大きな変化はないことから、総合的に「普通」と判断した。		当地域の漁業関係者が閑散期に入ること、流水シーズンによる観光客の増加が、コロナ禍により期待出来ないことから、景況見通しを「下降傾向」と判断した。

【景況感の推移】

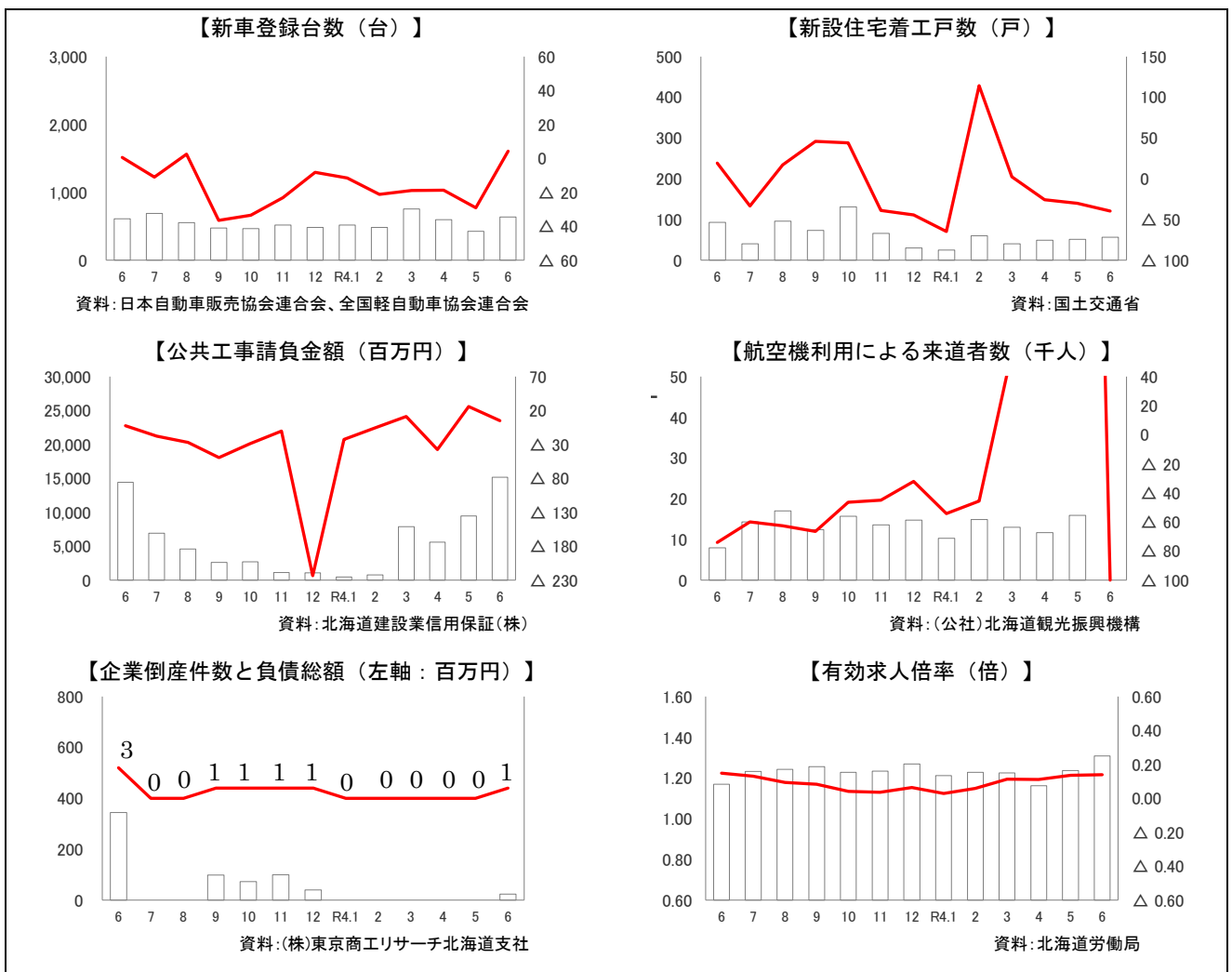
	R2-Ⅲ	R2-Ⅳ	R3-Ⅰ	R3-Ⅱ	R3-Ⅲ	R3-Ⅳ	R4-Ⅰ	R4-Ⅱ
網走信用金庫								
遠軽信用金庫								
北見信用金庫 (北見地区)								
北見信用金庫 (紋別地区)								

3 業種別の業況感BSI (企業経営者意識調査)



	R元-II	R元-III	R元-IV	R2-I	R2-II	R2-III	R2-IV	R3-I	R3-II	R3-III	R3-IV	R4-I	R4-II
全業種	△ 27	△ 15	△ 27	△ 46	△ 48	△ 53	△ 38	△ 36	△ 21	△ 33	△ 16	△ 13	△ 19
建設業	△ 33	△ 33	△ 18	△ 31	△ 15	0	0	18	△ 9	△ 30	△ 9	△ 22	△ 38
製造業	△ 25	0	△ 20	△ 17	△ 50	△ 30	△ 64	△ 27	△ 29	△ 30	8	△ 18	0
卸売・小売業	△ 16	△ 15	△ 25	△ 62	△ 43	△ 77	△ 23	△ 31	△ 16	0	△ 46	△ 36	△ 20
運輸業	△ 38	△ 20	△ 27	△ 50	△ 46	△ 88	△ 73	△ 75	△ 45	△ 73	△ 22	△ 16	△ 34
サービス業	△ 23	△ 7	△ 46	△ 65	△ 74	△ 72	△ 36	△ 57	△ 11	△ 29	△ 18	30	0

4 各種経済指標



(右軸：来道者数のみ前々年同月比、その他は前年同月比(差)：%)